

2022年度 新入社員の意識調査 結果

1 はじめに

当社では、OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会の受講者を対象に意識調査を実施している。27回目となる今年度は「地元就職とUターン就職」、「働く目的」について新たに尋ねた。また、前年度に引き続き、新型コロナウイルスがもたらした就職活動への影響や就職活動中の意識変化等について調査した。

2 調査概要

本調査の概要は下表の通りである。

- (1) 調査対象：岐阜県・愛知県等の企業211社の新入社員
- (2) 調査時期：2022年3月28日～4月13日
- (3) 調査方法：OKB大垣共立銀行主催の新入社員研修会受講者(731人)に無記名方式で実施
- (4) 有効回答者数：367人(有効回答率50.2%)
- (5) 回答者属性

	全体	男性	女性	
有効回答者数	367名	178名	189名	
平均年齢	21.1歳	21.0歳	21.1歳	
最終学歴	高校卒業	31.6%	31.5%	31.7%
	専門学校卒業	8.2%	5.1%	11.1%
	短期大学卒業	3.5%	2.2%	4.8%
	4年制大学卒業	51.5%	53.9%	49.2%
	その他	5.2%	7.3%	3.2%
居住地	岐阜県	55.9%	62.4%	49.7%
	愛知県	31.6%	25.8%	37.0%
	三重県	1.4%	2.2%	0.5%
	滋賀県	5.2%	6.2%	4.2%
	その他	6.0%	3.4%	8.5%
業種	建設業	8.4%	11.2%	5.8%
	製造業	42.5%	43.8%	41.3%
	卸売業、小売業	15.8%	15.2%	16.4%
	情報通信業	6.5%	6.7%	6.3%
	サービス業	6.3%	7.3%	5.3%
	その他	20.5%	15.9%	24.9%

(*) 数値は四捨五入の関係で合計が100%にならない場合がある(以下同じ)。

3 今年の新入社員像

(1) 地元就職とUターン就職

「地元就職」が7割弱

「あなたは地元就職・Uターン就職・その他のうち、どれにあてはまりますか」と尋ねたところ、「地元就職」が67.0%、「Uターン就職」が13.1%だった(図表1)。

男女別に見ると、男性は地元就職が61.8%、女性は72.0%と、女性の方が高くなっている。一方、Uターン就職は男性の方が高い。

最終学歴別に見ると、4年制大学卒業では地元就職が59.3%、Uター

ン就職が17.5%となっている。

居住地別に見ると、地元就職は岐阜県が68.8%、愛知県が76.7%となっている。

地元就職を選択した理由としては、「実家から通いたかったから」、「地元で貢献したいから」といったコメントが目立った。Uターン就職を選択した理由としては、「実家暮らしをしたかった」、「地元が好きだから」といった声が聞かれた。その他を選択した理由としては、「入社したい会社が地元ではなかった」(地元と違う地域の学校へ進学し、地元と違う地域で就職)、「一人暮らしをしたかった」(地元と違う地域の学校へ進学、就職)といったコメントがあった。

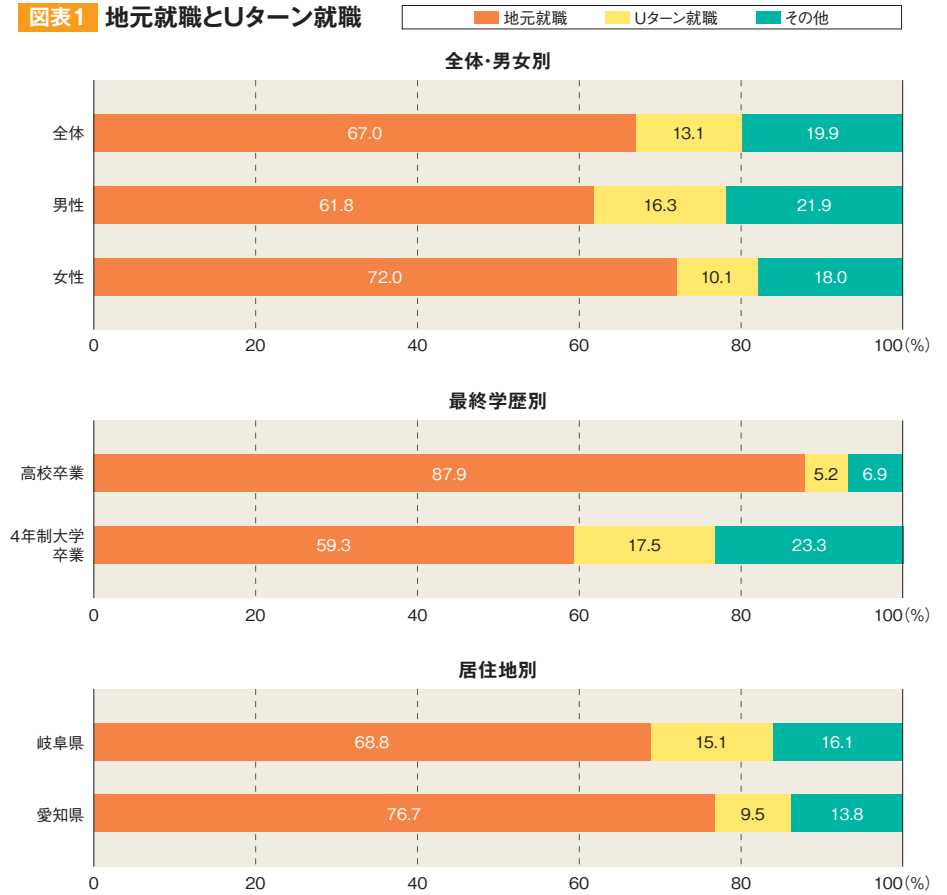
(2) 就職先の選択基準

「業種・事業内容」
「雰囲気・イメージ」を重視

「入社を決めるにあたって何を重視しましたか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「業種・事業内容」(57.8%)、2位は「雰囲気・イメージ」(43.3%)、3位は「休日・勤務時間」(31.6%)で、いずれも前回から回答率が上昇した(図表2)。コロナ禍で企業と対面で接する機会が減少した影響からか、「社員・人事担当者の対応」が▲7.4ポイントと大きく低下している。また、前回急落した「勤務地・通勤時間」は、前回とほぼ同水準となっている。

男女別に見ると、男性における「会社の将来性」が+10.8ポイントと大きく上昇している。また、「勤務地・

図表1 地元就職とUターン就職

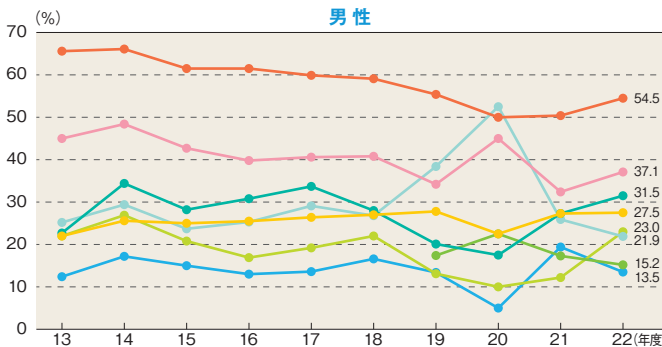
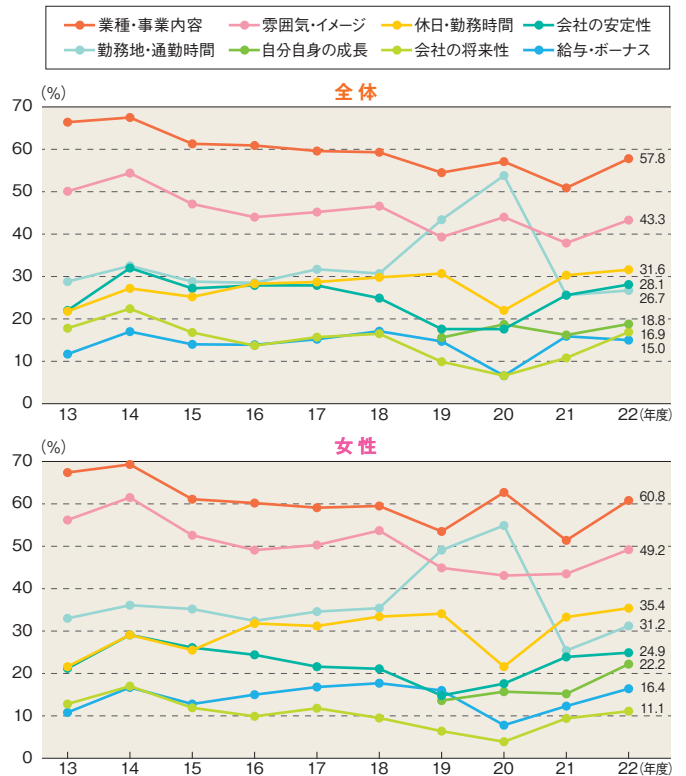


図表2 就職先の選択基準と推移 ※複数回答

就職先の選択基準(全体、16項目)

順位	項目	回答割合	前回比
1	業種・事業内容	57.8%	6.9
2	雰囲気・イメージ	43.3%	5.4
3	休日・勤務時間	31.6%	1.3
4	会社の安定性	28.1%	2.5
5	勤務地・通勤時間	26.7%	1.1
6	自分自身の成長	18.8%	2.6
7	会社の将来性	16.9%	6.1
8	給与・ボーナス	15.0%	▲0.9
9	社員・人事担当者の対応	12.8%	▲7.4
10	福利厚生	7.4%	▲3.4
11	親または学校の推薦	5.7%	▲2.2
12	会社の規模	4.9%	▲2.7
13	会社の知名度	3.0%	0.1
14	柔軟な働き方への対応	1.6%	(新設)
15	SDGsなど社会貢献意識の強さ	1.6%	(新設)
16	その他	0.8%	▲0.6

就職先の選択基準(上位8項目の推移)



(※)2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない

通勤時間」、「自分自身の成長」、「給与・ボーナス」について、男性は低下した一方、女性は上昇している。

(3) 将来就きたい地位

「スペシャリスト志向」が トップなるも低下傾向

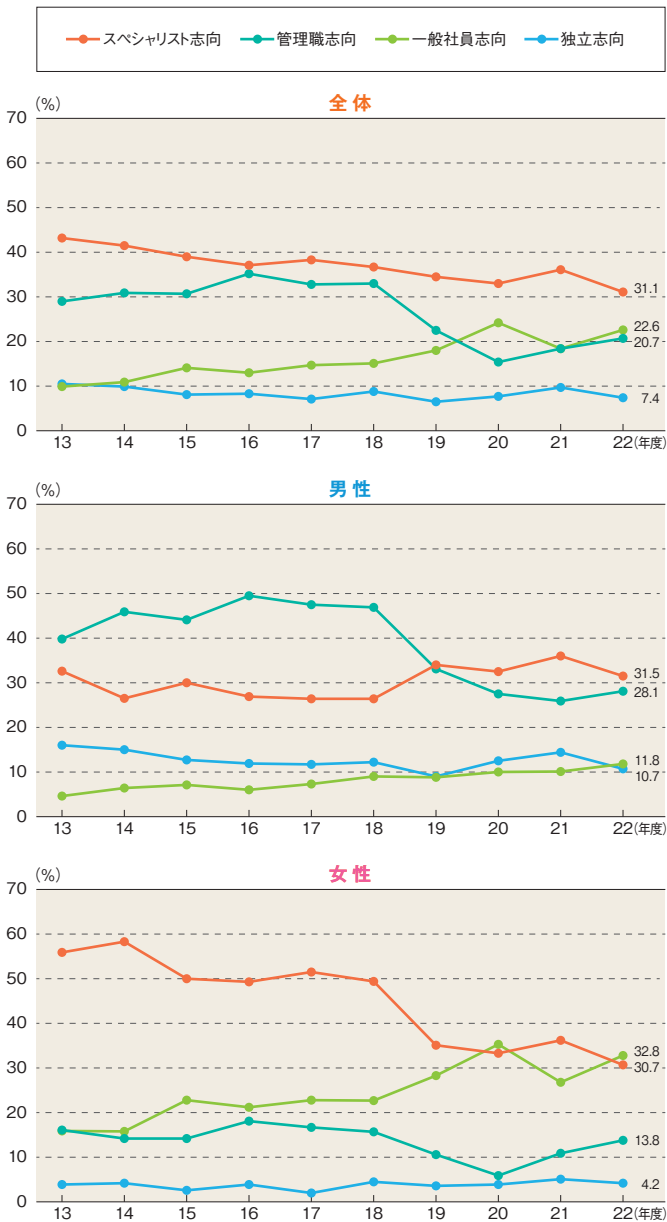
「あなたは将来どんな地位に就きたいですか(1つだけ選択)」と尋ね

たところ、1位は「特殊能力・技能のあるスペシャリスト社員(以下:スペシャリスト志向)」で31.1%、次いで「一般社員のままだよい(以下:一般社員志向)」が22.6%、「部長・課長・主任などの肩書のある管理職(以下:管理職志向)」が20.7%となった(図表3)。「スペシャリスト志向」が前回から低下した一方、「一般社員志向」と「管理職志向」は上

昇した。ここ10年の傾向を見ると、「スペシャリスト志向」は低下しているのに対し、「一般社員志向」は上昇している。

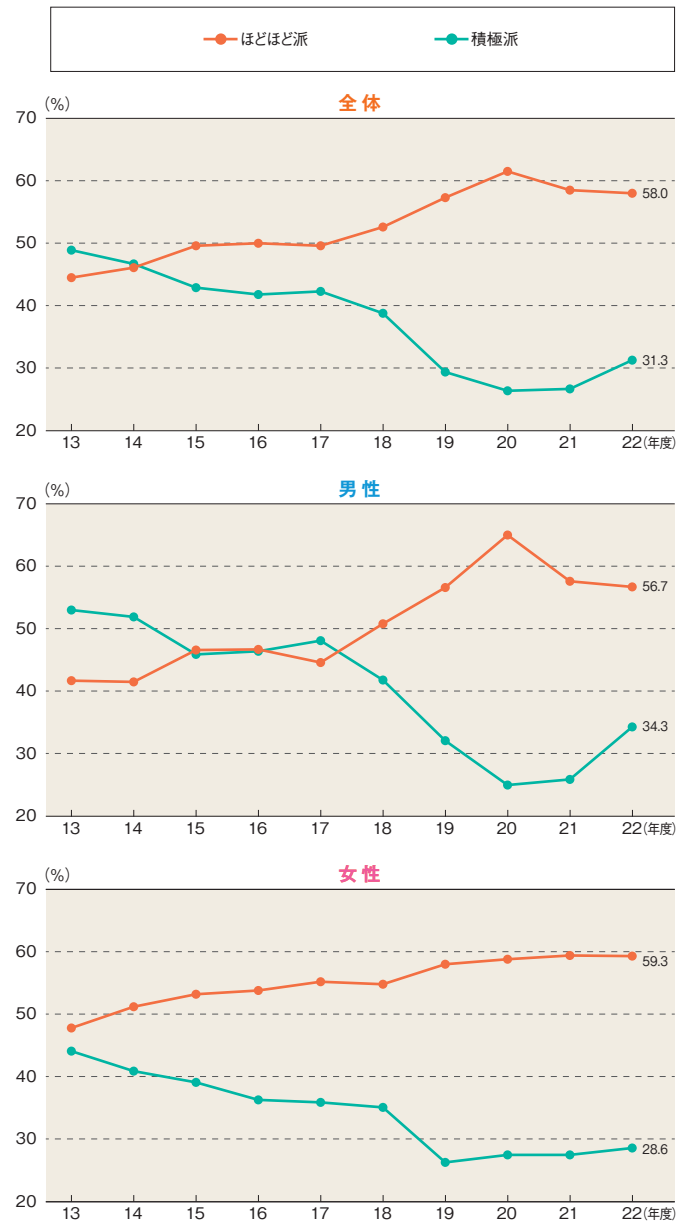
男女別に見ると、男性では、「スペシャリスト志向」(31.5%)が低下した一方、「管理職志向」(28.1%)は上昇している。「管理職志向」は2018年度を境に低下が続いていたが、今回その傾向に一服感が出た。

図表3 将来就きたい地位(わからないを除いた項目の推移)



(*) 2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない

図表4 上司・先輩との人間関係(上位2項目の推移)



(*) 2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない

女性は、「スペシャリスト志向」(30.7%)が低下した一方、「一般社員志向」(32.8%)が上昇し、順位が入れ替わった。「スペシャリスト志向」の低下傾向および「一般社員志向」の上昇傾向は、女性において顕著となっている。

(4) 上司・先輩との人間関係

「ほどほど派」と「積極派」の差がやや縮まる

「上司・先輩との人間関係はどのように考えていますか(1つだけ選択)」と尋ねたところ、「義理を欠かない程度(以下:ほどほど派)」が58.0%、「プライベートも含め積極的

に(以下:積極派)」が31.3%となった(図表4)。2015年度に「ほどほど派」が「積極派」を上回ったのちその差は拡大していたが、今回は「積極派」が+4.6ポイントとなり、両者の差はやや縮小した。

男女別に見ると、男性では「積極派」が+8.4ポイント伸び、「ほどほど派」との差が縮まった。一方、女性では「ほどほど派」と「積極派」の回答率に大きな変化はなく、依然として2倍以上の開きがある。

(5) 入社の際の不安

「上司・先輩との人間関係」がトップ

「入社にあたって不安に思うこと

は何ですか(3つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「上司・先輩との人間関係」(62.7%)、2位は「業界知識・業務内容」(54.0%)、3位は「社会常識・マナー」(49.3%)となった(図表5)。「上司・先輩との人間関係」が上昇した一方、「業界知識・業務内容」が低下し、1位と2位が前回から入れ替わった。

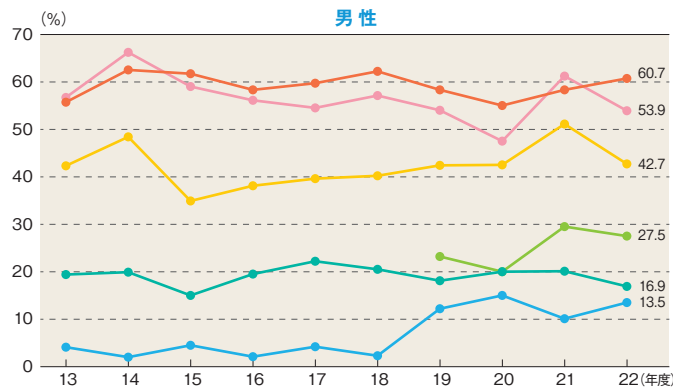
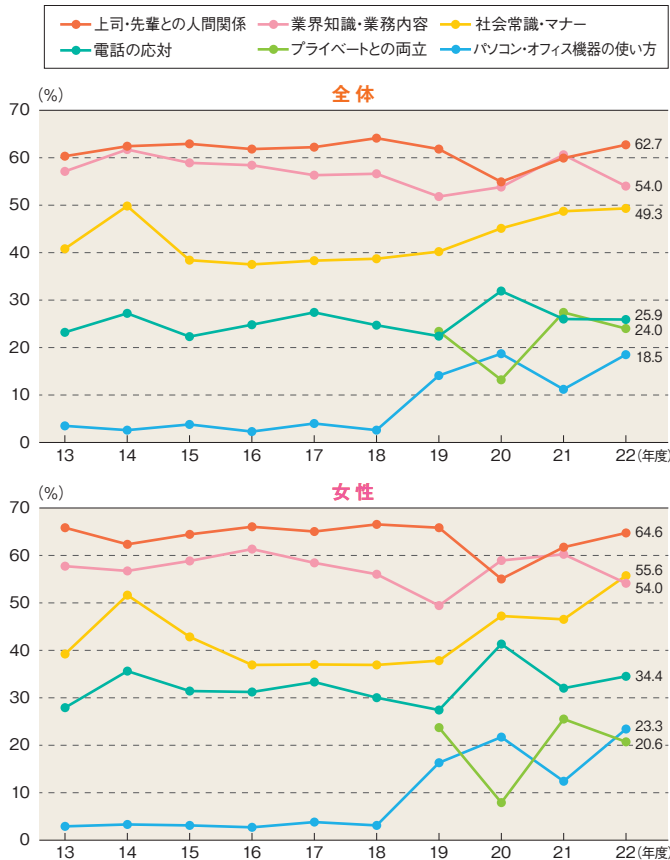
男女別に見ると、男女ともに「上司・先輩との人間関係」が上昇し、「業界知識・業務内容」が低下している。「社会常識・マナー」については、男性は低下した一方、女性は上昇している。

図表5 入社の際の不安 ※複数回答

入社の際の不安(全体、11項目)

順位	項目	回答割合	前回比
1	上司・先輩との人間関係	62.7%	2.8
2	業界知識・業務内容	54.0%	▲6.6
3	社会常識・マナー	49.3%	0.6
4	電話の応対	25.9%	▲0.1
5	プライベートとの両立	24.0%	▲3.4
6	パソコン・オフィス機器の使い方	18.5%	7.3
7	同僚との人間関係	16.6%	5.4
8	機械の使い方	16.3%	6.9
9	規則的な生活	11.4%	▲2.7
10	健康	11.2%	2.5
11	その他	0.5%	▲3.1

入社の際の不安(上位6項目の推移)



(*) 2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない

(6) 初給与の使い道

「預金する」がトップ、
次いで「家族に感謝」

「初給与はどのように使いますか(2つまで選択)」と尋ねたところ、1位は「預金する」(49.6%)、2位は「家族に贈り物をしたり、食事をごちそう

する(以下:家族に感謝)」(45.2%)
となった(図表6)。1位の「預金する」
は前回から+5.2ポイント上昇した。

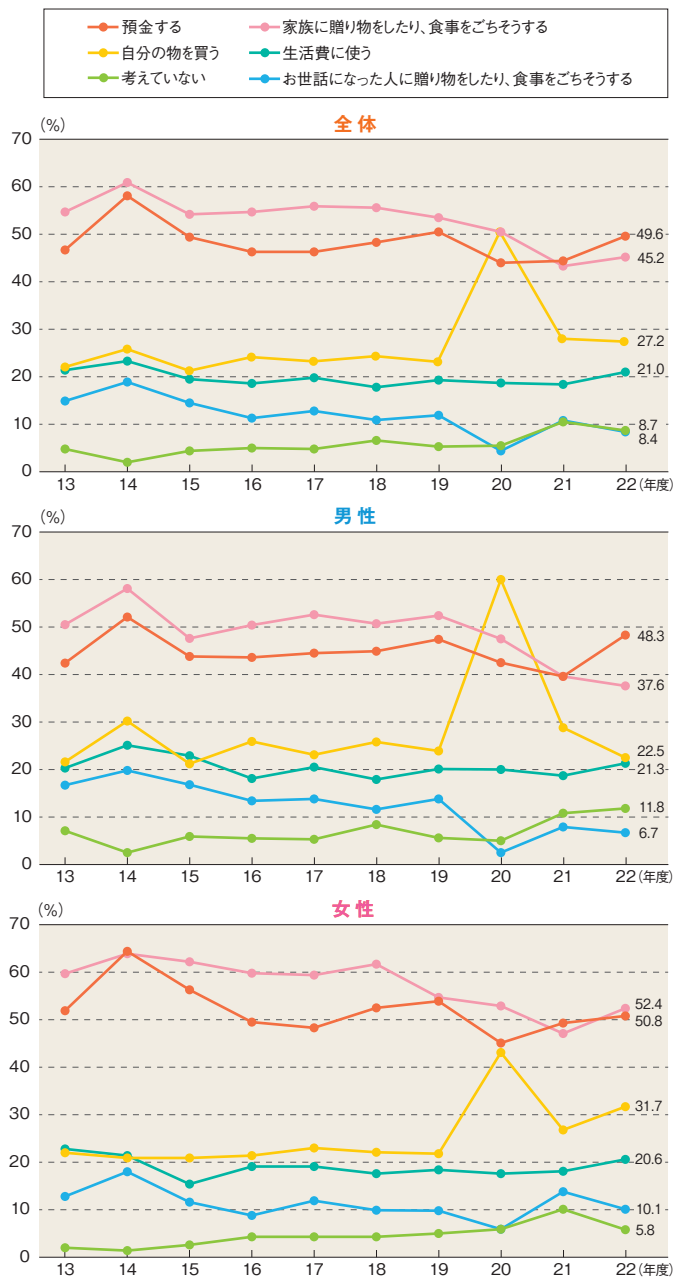
男女別に見ると、「家族に感謝」に
ついては、男性では低下した一方、
女性では上昇して2年度ぶりに1位と
なっている。

(7) 働く目的

「安定した生活を送りたい」がトップ

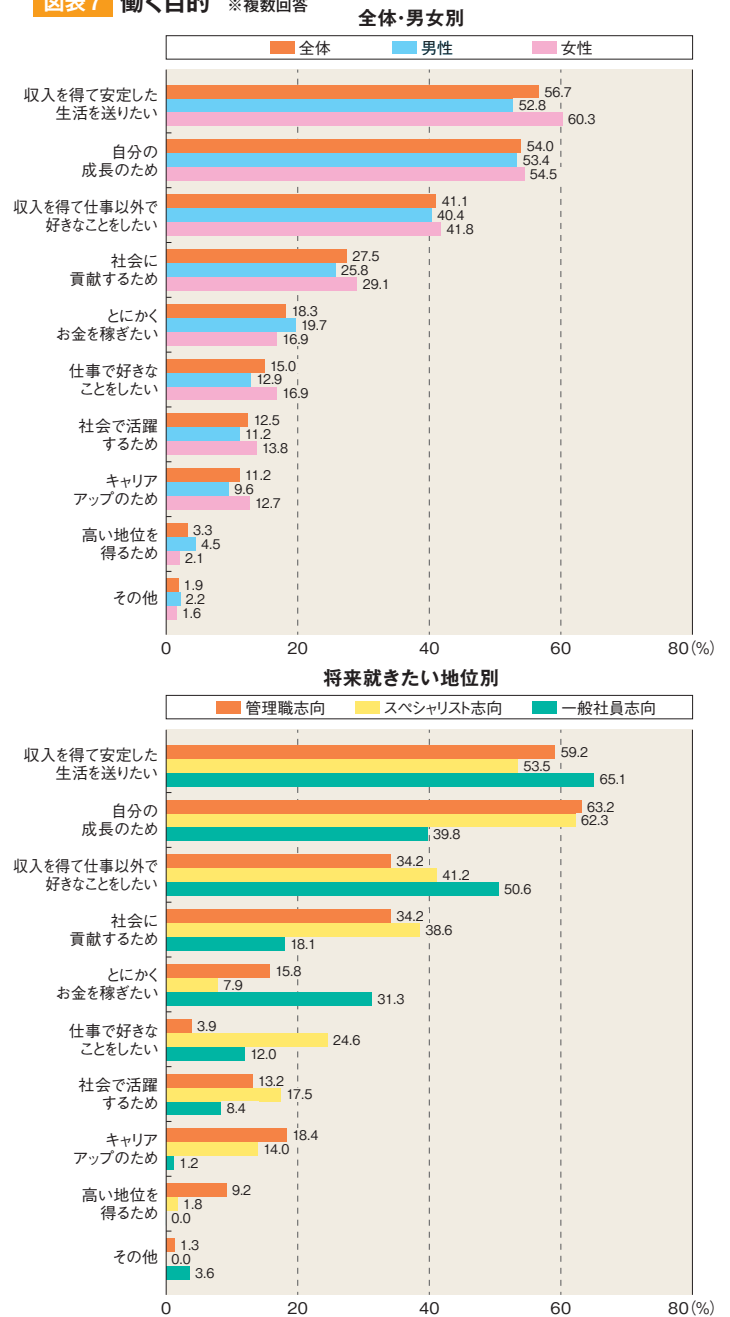
「あなたが働く目的は何ですか(3
つまで選択)」と尋ねたところ、1位は
「収入を得て安定した生活を送りたい」
(56.7%)、2位は「自分の成長の
ため」(54.0%)、3位は「収入を得て

図表6 初給与の使い道(上位6項目の推移) ※複数回答



(※)2020年度は新型コロナの影響で例年に比し回答数が少ない

図表7 働く目的 ※複数回答



仕事以外で好きなことをしたい」(41.1%)となった(図表7)。一方で、「社会で活躍するため」、「キャリアアップのため」、「高い地位を得るため」といった、社会における自身の活躍や地位向上に関する項目は回答率が低い。今回の調査結果では、新入社員は主に自らの生活の安定と充実を働く目的としていることがうかがえる。

男女別に見ると、男性は「自分の成長のため」(53.4%)、女性は「収入を得て安定した生活を送りたい」(60.3%)がトップであった。「収入を得て安定した生活を送りたい」については、女性が男性を7.5ポイント上回っている。

将来就きたい地位別に見ると、管理職志向とスペシャリスト志向は「自分の成長のため」(63.2%、62.3%)、一般社員志向は「収入を得て安定

した生活を送りたい」(65.1%)がそれぞれトップであった。また、一般社員志向は管理職志向やスペシャリスト志向と比べ「自分の成長のため」が低い一方、「収入を得て安定した生活を送りたい」、「収入を得て仕事以外で好きなことをしたい」、「とにかくお金を稼ぎたい」が高くなっている。

(8)理想の上司

「明石家さんま」と「天海祐希」が同率1位

今年度の新入社員に、「あなたの理想の上司とはどんなタイプですか。著名人・有名人に例えて1人だけお答え下さい(自由回答)」と尋ねたところ、「明石家さんま」と「天海祐希」が同率でトップに輝いた。明石家さんまは2018年度から4年度連続、天

海祐希は2017年度以来のトップとなった(図表8)。

全体ランキングでトップの明石家さんまは、「いつも明るく優しい」、「仕事は振りつつもよく気にかけてくれそう」、「おもしろくて人望があるから」といった意見が寄せられ、男女を問わず支持された。

また、天海祐希は「叱るところはきちんと叱り、褒めるところはきちんと褒めてくれそう」、「テキパキと指示を出してくれそう」、「芯を通すかっこよさがある」と、女性の支持を多く集め、女性ランキングでは3年度ぶりに1位となった。

男女別ランキングでは、男性が選んだトップ3は1位が松本人志、2位は同率で明石家さんま・内村光良・イチローとなった。女性が選んだトップ3は1位が天海祐希、2位が水ト麻美、3位が明石家さんまとなった。

図表8 理想の上司 (敬称略)

全体	順位	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度
	1	天海祐希	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま
2	明石家さんま	松岡修造	松岡修造	イチロー	水ト麻美	天海祐希
3	松岡修造	天海祐希	天海祐希	松岡修造	内村光良	内村光良
4	所ジョージ	内村光良	内村光良	内村光良	天海祐希	櫻井翔
5	水ト麻美	イチロー	イチロー	水ト麻美	イチロー	水ト麻美

男性新入社員	順位	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度
	1	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	イチロー	明石家さんま
2	松岡修造	松岡修造	松岡修造	明石家さんま	イチロー	明石家さんま
3	所ジョージ	イチロー	イチロー	松岡修造	松岡修造	内村光良
4	イチロー	松本人志	松本人志	内村光良	阿部寛	イチロー
5	松本人志	北野武	北野武	所ジョージ	松本人志	志村けん

女性新入社員	順位	2017年度	2018年度	2019年度	2021年度	2022年度
	1	天海祐希	天海祐希	天海祐希	水ト麻美	水ト麻美
2	水ト麻美	明石家さんま	明石家さんま	明石家さんま	天海祐希	水ト麻美
3	明石家さんま	水ト麻美	水ト麻美	松岡修造	内村光良	明石家さんま
4	松岡修造	松岡修造	松岡修造	天海祐希	明石家さんま	内村光良
5	内村光良	内村光良	内村光良	内村光良	櫻井翔	櫻井翔

(*) 網掛けは2022年度全体で回答率が高かった上位3位までの人。2020年度については新型コロナウイルスの影響で回答数が少なかったため集計していない。

4 第2回 新型コロナウイルスによる就職活動・就業意識への影響

(1) 就職活動への新型コロナの影響

就活でコロナの影響を受けたとの回答が7割超 前回とほぼ同水準

「就職活動において新型コロナの影響を受けましたか」と尋ねたところ、「とても受けた」が19.9%、「やや受けた」が51.0%、合わせて70.9%の新入社員が就職活動において新型コロナの影響を受けたと回答した。前回調査(2021年度)と比べ「とても受けた」が減少し、「やや受けた」が増加したものの、全体として大きな変化は見られなかった。

男女別に見ると、「とても受けた」「やや受けた」の合計が男性は前回から増加した一方、女性は減少した。女性の方が大きかった前回と違い、男女の差はほぼなくなった。最終学歴別に見ると、4年制大学卒業の「とても受けた」は前回から大きく減少したものの、「とても受けた」「やや受けた」の合計にほとんど変化は見られない(図表9)。

自由意見では、会社説明会や面接などのオンライン化に関するコメントが多く寄せられた。オンライン会社説明会については「気軽に受けることができた」、「訪れにくい場所にある企業の話がたくさん聞けた」という好意的な意見が多かった。一方、オンライン面接については「自己PRを伝えるにくい」、「会社の雰囲気が分かりづらい」といった声が目立ち、オンライン上での会社とのやりとりに苦戦

した様子うかがえた。

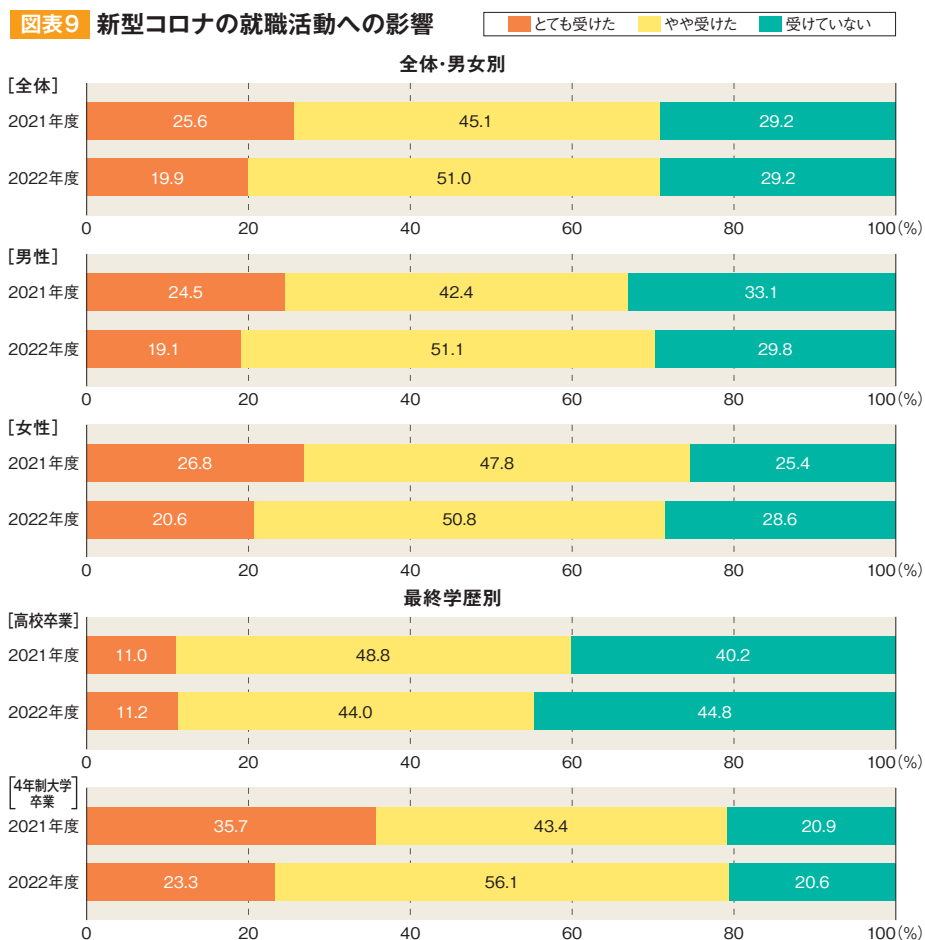
また、「募集数が例年と比べて少なく就職先が選べない」といった採用人数や募集に関する厳しい状況を伝える声や、「企業見学に行けない」、「インターンシップがなくなった」など、新型コロナによって事前に仕事の現場を知る機会が失われたことをうかがわせるコメントも寄せられた。

(2) 業種・職種選択、希望する勤務地への影響

業種選択・職種選択で約5割が影響を受けたと回答

業種・職種の選択、希望する勤務地への影響について尋ねたところ、「とても受けた」「やや受けた」の合計は業種選択では55.9%、職種選択では48.8%となった。前回と比べると、業

図表9 新型コロナの就職活動への影響



コメント

オンライン会社説明会 <input type="checkbox"/> 気軽に説明会を受けることができた <input type="checkbox"/> 実際に訪れにくい場所にある企業の話がたくさん聞けるようになった <input type="checkbox"/> 地方に住んでいるため、ありがたかった	募集枠 <input type="checkbox"/> 募集数が例年と比べてとても少なく就職先をあまり選べない状態だった <input type="checkbox"/> 新卒採用を行っていない企業もあった
オンライン面接 <input type="checkbox"/> オンライン面接の練習をした <input type="checkbox"/> 自己PRを伝えるにくい <input type="checkbox"/> 会社の雰囲気が分かりづらかった	企業情報の収集 <input type="checkbox"/> 企業見学に行けない <input type="checkbox"/> インターンシップがなくなった

種選択は+5.4ポイント、職種選択は+1.2ポイントと増加している。コロナ禍の影響を強く受けている業種や職種に関して「受けられなくなった」、「このまま志望して良いのか不安になった」といったコメントもあり、コロナ禍が業種・職種選択に影を落としていることが見て取れる。希望する勤務地について同割合は37.6%、前回から▲3.6ポイントとなった(図表10)。

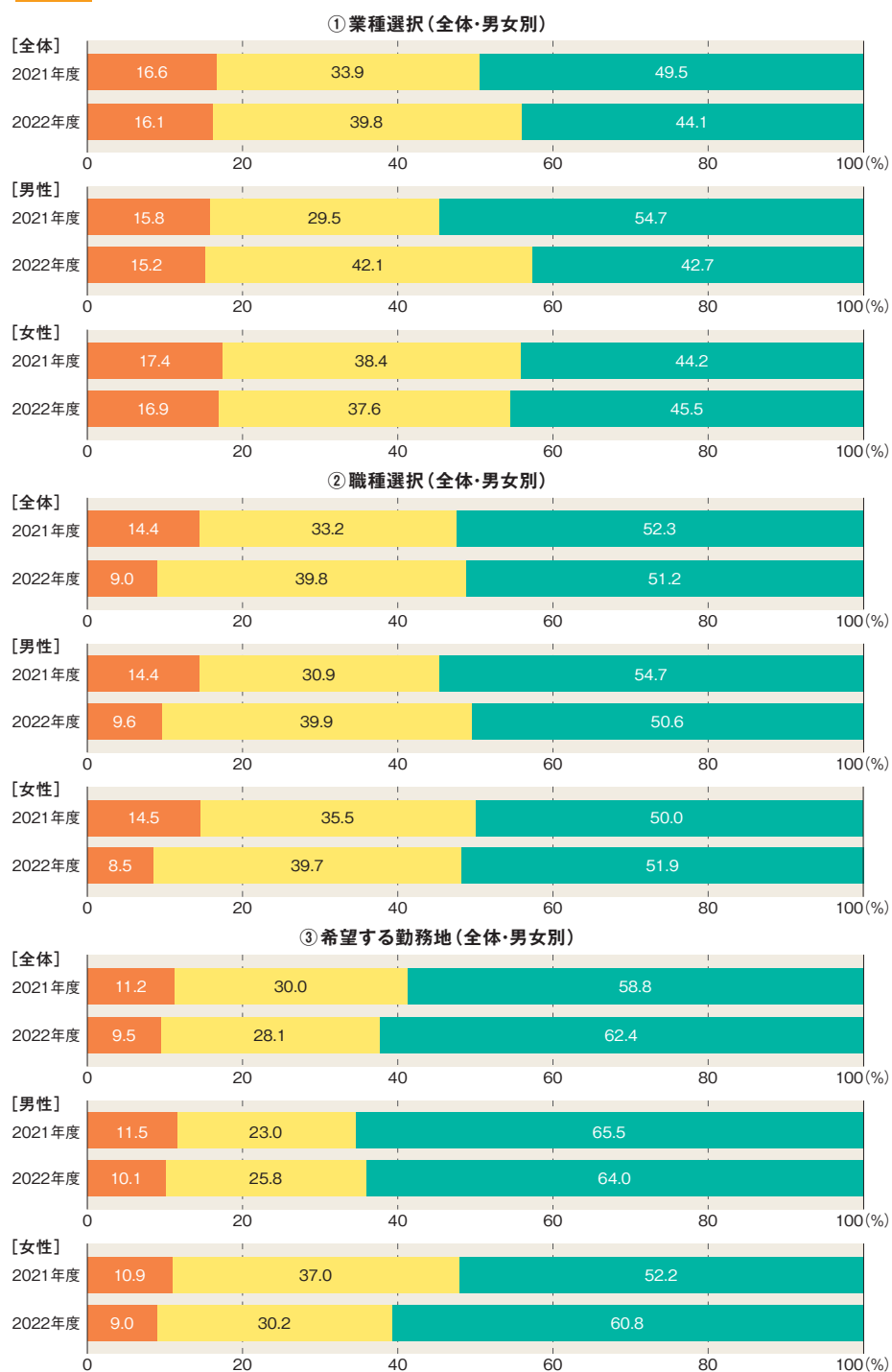
男女別に見ると、「業種選択」において男性は前回から+12.0ポイントと大きく伸びている。また、前回は業種選択・職種選択・希望する勤務地のいずれにおいても女性の方が「とても受けた」「やや受けた」の合計が大きい傾向があったが、今回は業種・職種選択は男性の方が大きく、希望する勤務地は女性の方が大きくなっている。

(3) 就職活動中の意識変化

「企業の対策・影響を意識」が約6割で上位 女性の地元志向が強まる

「新型コロナの影響による就職活動中の意識変化」について尋ねたところ、あてはまるとの回答が最も多かったのは「企業業績へのコロナ禍の影響を意識した」(64.0%)で、次いで「企業の柔軟な働き方への対応を意識した」(63.8%)、「企業のコロナ対策を意識した」(59.9%)となった。いずれも前回から回答率は低下したものの、コメントで「感染対策が会社の意識の高さと感じた」、「コロナでその企業がどう変わったか意識した」等とあるように、企業のコロナ禍への対応や影響が会社選びにおける1つの判断基準となったようである。

図表10 業種・職種選択、希望する勤務地への影響



コメント

業種選択	希望する勤務地
<input type="radio"/> 航空業が受けられなくなり、新たにやりたい仕事を考えるきっかけになった <input type="radio"/> 希望業界の変更を行わざるをえなかった	<input type="radio"/> リモートが普及し、働く場所にこだわりがなくなった <input type="radio"/> 集団感染を避けるため、自動車通勤ができることになった
職種選択	
<input type="radio"/> 希望する職種の求人が少なかった <input type="radio"/> 選ぶ職種を考えるようになった <input type="radio"/> 接客業を志望していたが、コロナ禍で対面での接客が難しくなり、このまま志望して良いのか不安になった	

男女別に見ると、「オンライン面接などを行っている企業を選ぶようにした」を除く全ての項目において、女性の方が男性に比べ回答率が高い。特に「就活においても移動自粛を心掛けた」については、男性53.4%に対し女性64.6%と、10ポイント以上の開きがある。前回比を見ると、「地元志向が強まった」については、女性

が前回から+10.9ポイントと大きく伸びて50.8%となっている(図表11)。

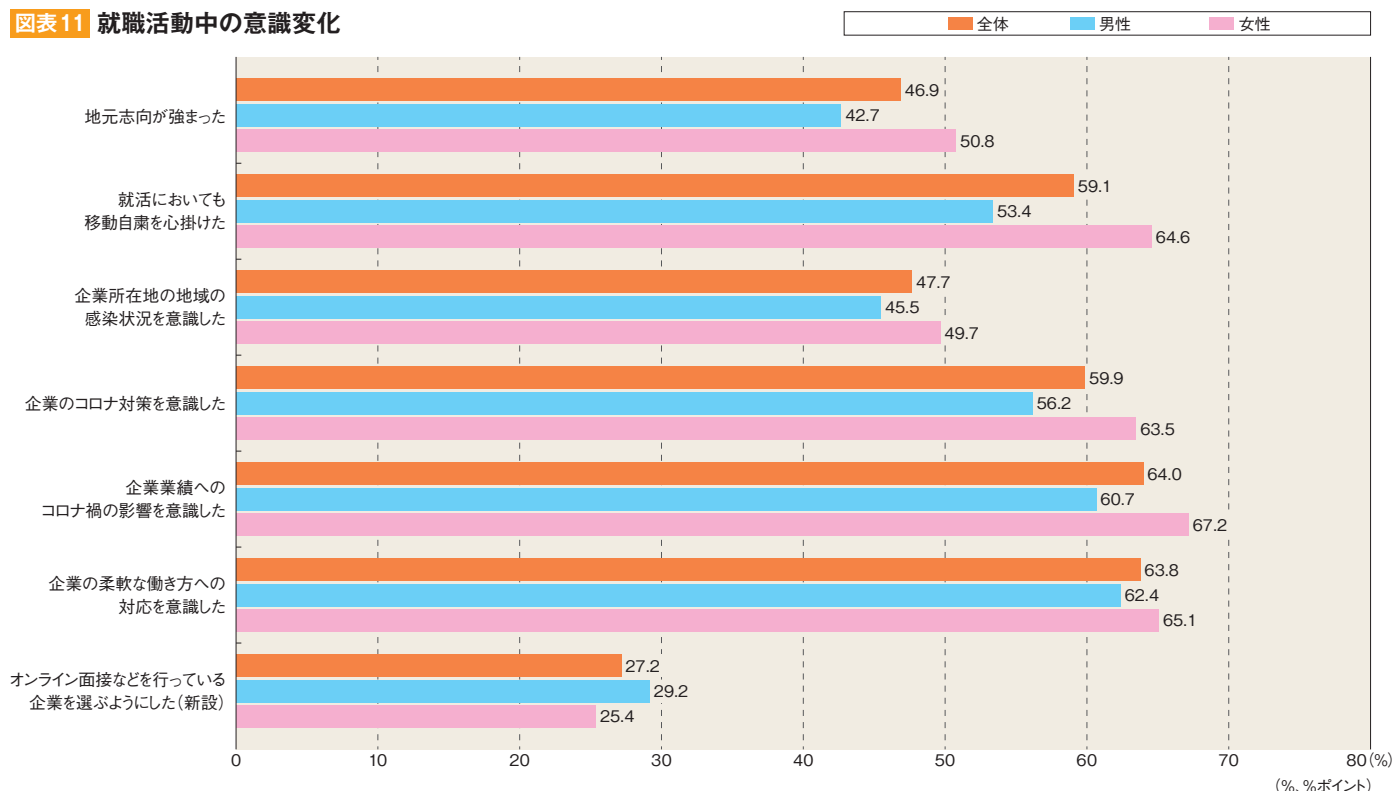
(4) 新型コロナ感染拡大による不安 自分や家族の収入に対する不安が6割超

各項目について、「新型コロナ感染拡大でどの程度不安を感じています

か」と尋ねたところ、「とても感じる」「まあ感じる」を合わせた割合が最も高いのは「自分や家族の収入への影響」(62.6%)、次いで「自分のライフプランへの影響」(57.8%)、「勤務先の業績への影響」(56.7%)となった。いずれの項目も不安を感じるとの回答が5~6割程度と高い。

男女別に見ると、「自分や家族の

図表11 就職活動中の意識変化



	全体			男性			女性		
	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比
地元志向が強まった	39.0	46.9	7.9	38.1	42.7	4.6	39.9	50.8	10.9
就活においても移動自粛を心掛けた	57.8	59.1	1.3	51.8	53.4	1.6	63.8	③64.6	0.8
企業所在地の地域の感染状況を意識した	53.1	47.7	▲5.4	51.1	45.5	▲5.6	55.1	49.7	▲5.4
企業のコロナ対策を意識した	③63.9	③59.9	▲4.0	③60.4	③56.2	▲4.2	③67.4	63.5	▲3.9
企業業績へのコロナ禍の影響を意識した	①69.3	①64.0	▲5.3	①69.8	②60.7	▲9.1	②68.8	①67.2	▲1.6
企業の柔軟な働き方への対応を意識した	②66.1	②63.8	▲2.3	②61.2	①62.4	1.2	①71.0	②65.1	▲5.9
オンライン面接などを行っている企業を選ぶようにした(新設)	-	27.2	-	-	29.2	-	-	25.4	-

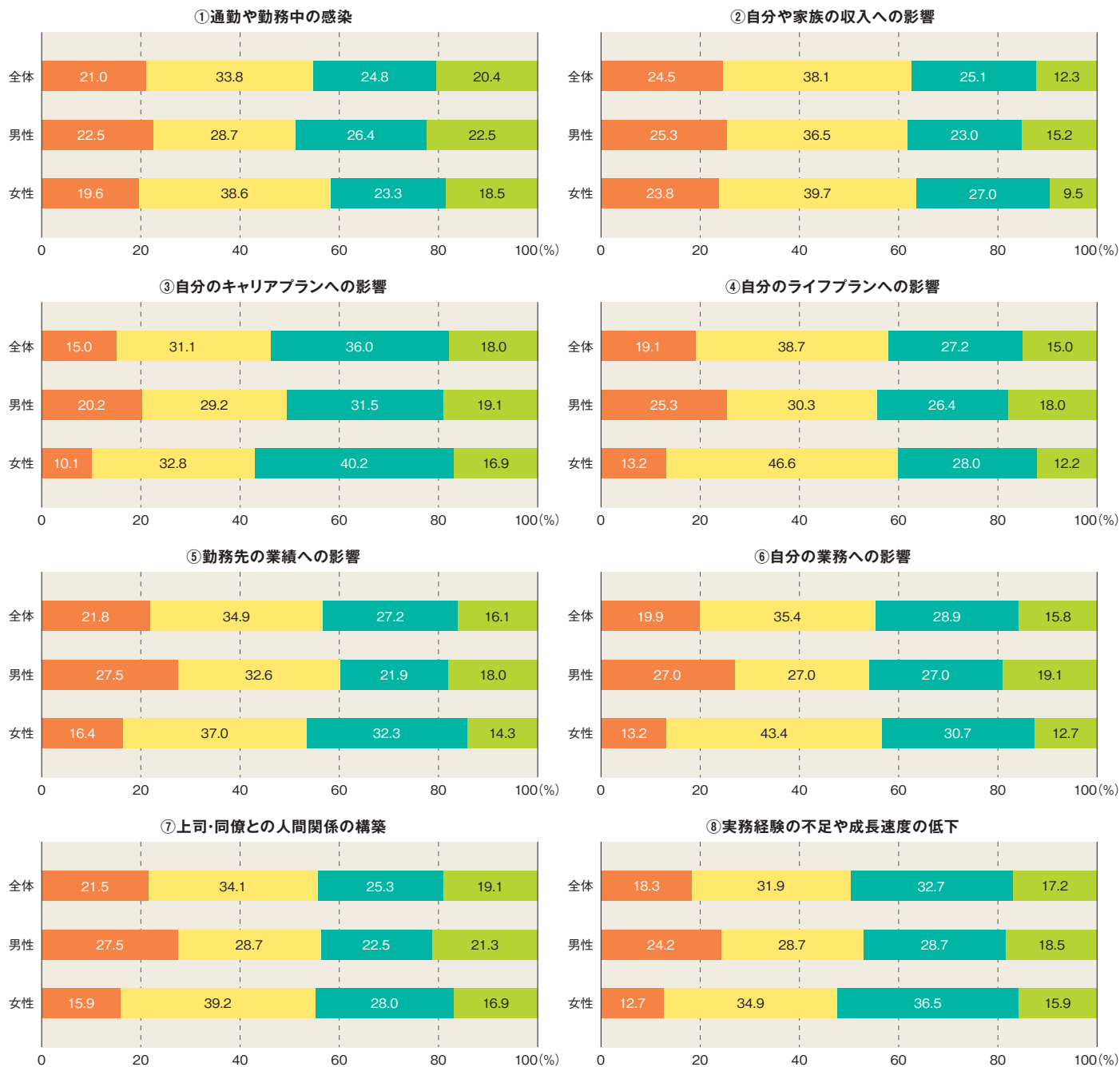
(*) 丸数字は各年度における上位3つまでの順位。

コメント

就職の地元回帰	企業のコロナ対策、柔軟な働き方への対応	企業業績への影響
○地元に戻って就職したいと感じた	○感染対策が会社の真摯な意識の高さを感じるようになった ○在宅勤務や時短などにどれだけ柔軟に対応できるかを働く前から知ることができて参考になった	○コロナでその企業がどう変わったかを意識するようになった ○業績が安定しており利益がしっかり出ている企業に目を向けるようになった

図表12 新型コロナ感染拡大による不安

とても感じる まあ感じる あまり感じない 感じない



(%、%ポイント)

	全体			男性			女性		
	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比	2021年度	2022年度	前回比
通勤や勤務中の感染	54.1	54.8	0.7	48.2	51.2	3.0	③60.2	③58.2	▲2.0
自分や家族の収入への影響	55.3	①62.6	7.3	51.0	①61.8	10.8	59.4	①63.5	4.1
自分のキャリアプランへの影響	49.1	46.1	▲3.0	48.9	49.4	0.5	49.2	42.9	▲6.3
自分のライフプランへの影響	②58.8	②57.8	▲1.0	②56.9	55.6	▲1.3	②60.9	②59.8	▲1.1
勤務先の業績への影響	①62.5	③56.7	▲5.8	①63.3	②60.1	▲3.2	①61.6	53.4	▲8.2
自分の業務への影響	③56.3	55.3	▲1.0	②56.9	54.0	▲2.9	55.8	56.6	0.8
上司・同僚との人間関係の構築	54.5	55.6	1.1	51.1	③56.2	5.1	57.9	55.1	▲2.8
実務経験の不足や成長速度の低下(新設)	-	50.2	-	-	52.9	-	-	47.6	-

(※1) 数値は「とても感じる」「まあ感じる」の合計。(※2) 丸数字は各年度における上位3つまでの順位。

収入への影響」の回答率が男女ともに前回から上昇しトップとなっている。また、「通勤や勤務中の感染」、「自分のライフプランへの影響」といった項目においては女性の方が男性に比べ不安を感じるとの回答率が高く、反対に「自分のキャリアプランへの影響」、「勤務先の業績への影響」、「実務経験の不足や成長速度の低下」といった項目においては男性の方が女性に比べ回答率が高い(図表12)。

(5) コロナ禍を契機に 利用したい働き方

およそ半数が
「在宅勤務」・「フレックスタイム」・
「短時間勤務制度」を利用したいと回答

コロナ禍を契機に、それぞれの働

き方を利用したいかどうか尋ねたところ、「テレワーク(在宅勤務)」、「フレックスタイム(時差出勤等)」、「短時間勤務制度」について約5割が「利用したい」と回答した。理由としては「人との過度な関わりによるコロナ感染を防ぐため」、「取り入れた方が業務効率も生活クオリティーも上がる」、「時代や情勢に合わせた働き方がしたい」といった声が聞かれた。

男女別に見ると、どの働き方も女性の方が男性よりも回答率が高く、女性は多様な働き方について利用意向が強いことが分かる。特に「短時間勤務制度」は60.8%、「フレックスタイム」は58.7%、「在宅勤務」は52.9%もの女性が「利用したい」と回答しており、感染リスクを避けることができ、かつプライベートと仕事のバ

ランスがとりやすい働き方に対して関心が高いようだ(図表13)。

(6) 行動・意識の変化に関する コメント

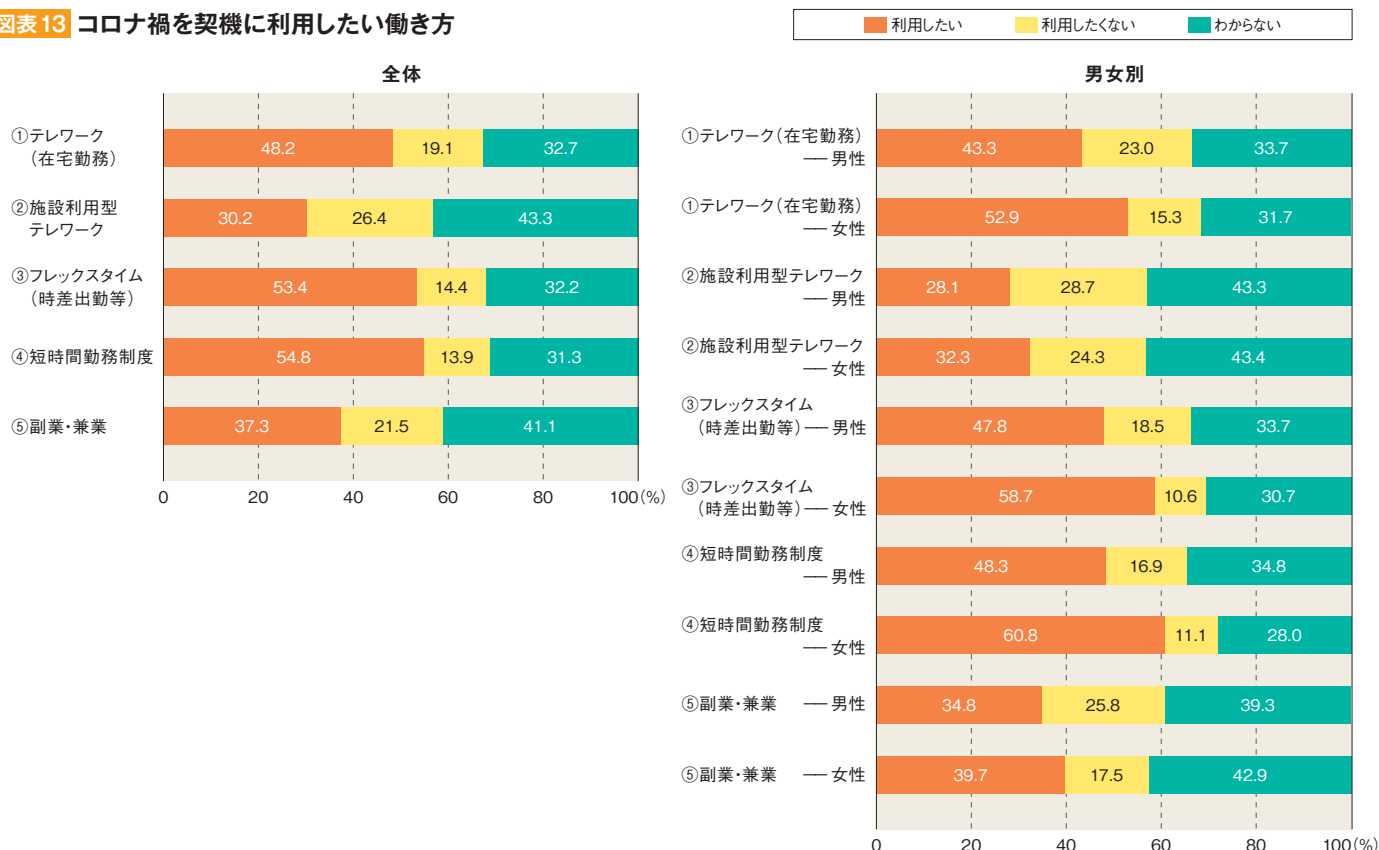
「あなたが感じた新型コロナによる影響や意識の変化」について自由記述を求めたところ、図表14のようなコメントがあった。

(7) 総括

今回の調査において、将来就きたい地位は、例年と同様に「スペシャリスト志向」がトップとなった。ただし、ここ数年間で「スペシャリスト志向」は低下傾向にある一方、「一般社員志向」は上昇傾向が見られ、特に女性において顕著となっている。

上司・先輩との人間関係では、例

図表13 コロナ禍を契機に利用したい働き方



年通り「ほどほど派」が男女ともに6割弱を占める結果となったが、今回は男性の「積極派」が大きく伸びた。

新たに追加した「働く目的」に関する質問では、1位が「収入を得て安定した生活を送りたい」、2位が「自分の成長のため」、3位が「収入を得て仕事以外で好きなことをしたい」という結果となり、自らの生活の安定と充実を働く目的としていることが分かった。

コロナ禍2年目の就職活動を経験した今年度の新入社員は、およそ7割が新型コロナウイルスによる影響を受けたと回答し、前回(2021年度)とほぼ同水準だった。しかし、業種選択と職種選択については前回と比べて影響を受けたとする回答が増加しており、長引くコロナ禍が影を落としていることが見て取れる。

就活中の意識変化では、女性において地元志向が強まっている様子が見られた。感染拡大による不安については、「自分や家族の収入へ

の影響」が男女ともに前回から伸びて最も回答率が高くなっており、コロナ禍で先行きが見通しづらいなかで、収入に対する不安がいっそう増している様子が見えてくる。

新型コロナ感染拡大を背景に広がりつつあるテレワークなどの柔軟な働き方に関しては、新入社員のおよそ半数が在宅勤務・フレックスタイム・短時間勤務制度を利用したいと回答した。また、どの働き方も女性の方が男性よりも回答率が高く、女性は多様な働き方について利用意向が強いことが分かった。

今回はオンライン会社説明会やオンライン面接についてのコメントが多く寄せられた。オンライン会社説明会については、「たくさんの会社を見ることができた」といった意見があり、企業研究や業界研究に役立ったようである。就活生の利用意向が高く、企業にとっては遠方の就活生にも広くアプローチできることなどから、オンライン会社説明会は有効な手段とい

えそうだ。一方、オンライン面接については、「会社の雰囲気が分かりづらい」といったコメントが寄せられた。企業は面接をオンライン化する場合、画面越しでも職場や社員の様子が就活生に伝わりやすいような工夫が求められる。

新型コロナはいまだ収束の見通しが立たないものの、昨今では過度な自粛を見直すべきとの声も聞かれており、来年度以降の新入社員は行動制限が緩和された中で就職活動を行っていくことが見込まれる。新入社員の就職活動・就業意識は、今後どのように変化していくのか、注目される。

(2022.6.2)

OKB総研 調査部 梅木 風香

図表14 「あなたが感じた新型コロナによる影響や意識の変化」へのコメント (一部抜粋)

就職活動での行動・意識の変化について
<input type="checkbox"/> 今まで通りの就活の手順が利用できず少しレギュラーであった <input type="checkbox"/> 対面での面接においてもマスクで表情が見えないため、声や目元の表情を気にしなければいけないのが大変だった <input type="checkbox"/> 将来的にはテレワークやリモートワークを活用し、自由な働き方がしたいという思いが強くなった
生活面での行動・意識の変化について
<input type="checkbox"/> 自分自身の行動に責任を持つようになった <input type="checkbox"/> 衛生管理の意識が強くなった <input type="checkbox"/> プライベートではあまり外に出歩かないように必要最低限の行動をとった <input type="checkbox"/> コロナにより授業開始早々に自宅学習に切り替わり、課題が送られてくるだけの始まりでとても不安であった
コミュニケーションについて
<input type="checkbox"/> マスクで人の顔を意識することが少なくなり、人間関係がさらに希薄になった気がする <input type="checkbox"/> マスクをしているため顔の表情が伝わりにくく、不安なときがあった <input type="checkbox"/> 食事中に会話ができないため、人間関係を作りにくいと感じる <input type="checkbox"/> 友達との意見交換が少なくなった <input type="checkbox"/> 先輩社員や同期入社社員の顔を知ることができない